

# 1 環境保護の意義について

地球温暖化、オゾン層破壊、森林破壊などのさまざまな環境問題が起こっています。この環境問題が自然生態系を破壊し、人間の生活にも大きな影響が及ぶような状況が生じています。

自然生態系は、「大気・水・土壌・生き物・太陽エネルギー」の5つの要素から成り立ちます。この5つのうちの「生き物」は、生産者（植物）、消費者（動物）そして分解者（細菌等）の3つに分けられます。

生産者の植物は、「太陽エネルギー」を吸収して光合成を行い、炭水化物などの有機物を生産し、生き物の呼吸に必要な酸素を作り出しています。

消費者である動物は、植物が生産した有機物を食べ、酸素を吸って生存しています。そして、細菌などの分解者は、枯れた植物や動物の死骸を分解することによって生存し、その分解物は植物の栄養となって吸収されます。

このように、「生き物」の世界はぐるぐる循環することによって成り立っています。そして、「生き物」の循環には、「大気・水・土壌」が必要です。現在、起こっているさまざまな環境問題は、どれも、「大気・水・土壌」に関係します。日本と海外の国との間で人や物が行ったり来たりしているように、「大気・水・土壌」も世界中でつながっています。そのため、環境問題は、日本だけの取組ではなく、国境を越えて地球全体で取り組む必要があります。

私たちボーイスカウト岐阜第1団の先輩大竹さんは、気象庁から南極観測隊員として、有害な紫外線を吸収する働きがあるオゾン層の減少（オゾンホール）の調査を行っています。11月16日の南極セミナーでは、大竹さんからオゾンホールの問題や調査内容について話を聞きました。特に印象に残っていることは、環境問題には、トランスサイエンス（科学的な問題だが、科学では解決できない問題）があることや私たち人間の無関心さや無責任な行動によって引き起こされることが多いということです。

人間と環境との関わりについて理解を深め、自分たちでできることは何かを考え、実行していくことが大切だと思います。

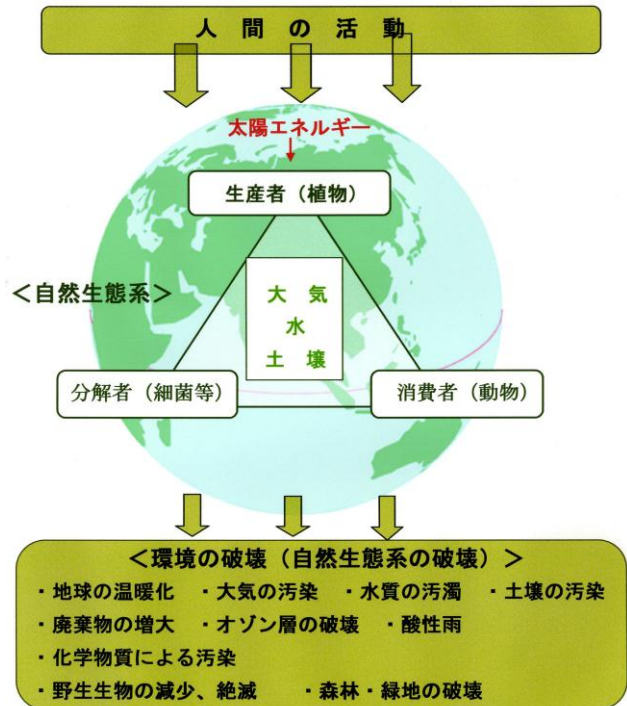


図 1：イートハーブの会HP参照